

令和8年度 兵庫県農業気象技術情報第1号（5月情報）について

1 気象経過・予報から想定される栽培上の留意点と対応策

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
水稲	全県共通	<p>1 生育</p> <p>気温は高いと予想されている。降水量は平年並、日照時間は平年並から少ない見込みである。日較差（寒暖差）の大きい日が多くなる見込みであり、ハウス育苗では特に留意する。</p> <p>種子予措では適切な水温及び浸種時間を確保し、十分に催芽させて播種する。播種はうす播きにし、育苗時の温度管理と灌水に留意するとともに、軟弱徒長しないように健苗の育成に努める。</p> <p>白化苗を防止するため、緑化前の苗では寒冷紗等で、3～4日被覆し、徐々に馴らす。</p> <p>ムレ苗を防止するため、トンネル内の換気に努め、急激な温度変化を避ける。</p>	
		<p>2 病害虫</p> <p>苗いもちの発生に留意する。</p> <p>苗立枯病は育苗培土中の伝染源により発生し、育苗期の急激な温度変化により助長される。</p> <p>水田周辺において、斑点米カメムシ類の越冬世代虫の発生を確認している。今後の高温により増殖が懸念される。</p> <p>ヒメトビウンカの越冬世代虫の発生がみられている。今後の高温により増殖が助長され、平年並の発生が予想される。</p> <p>スクミリンゴガイの発生地域は、移植直後の被害が懸念される。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>種子消毒時の薬液の温度が10℃以下にならないように管理する。水替え時に種子を洗わないようにする。種子消毒については令和8年2月24日発表の「令和7年度病害虫発生予察防除情報第9号」（https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1538）を参考にする。</p> <p>苗いもちの発生を防ぐため、もみ殻・わら等の伝染源は周囲から除去するとともに、トンネル内の適切な換気に努め、過湿を避ける。また、夜間の過湿を避けるため、夕方の灌水はしない。さらに、苗いもちが発生したら、速やかに除去すると共に薬剤防除を行う。</p> <p>苗立枯病の発生を防ぐためには、発生前に薬剤防除（薬剤の培土混和や灌注処理）を行い、適温を保つように管理する。</p> <p>本田に侵入する斑点米カメムシ類の密度を下げるため、雑草の草刈りや除草剤散布などの水田周辺の管理に努める。</p> <p>イネ縞葉枯病が前年に発生した地域につい</p>

作物 地域	栽培上の留意点	対 応 策												
		<p>ては、媒介虫であるヒメトビウンカ対策のため、育苗箱施用の殺虫剤を処理するなど、移植直後からの防除を徹底する。</p> <p>スクミリンゴガイの発生地域は入水口の侵入防止や移植後の薬剤処理を行う。</p> <p>上記の薬剤防除は「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に実施する。</p>												
麦 全 県 共 通	<p>1 生育</p> <p>2月中旬から3月下旬にかけて気温が高く推移した影響で、出穂は播種時期により差がみられるが、平年より5日早くなった。</p> <p>今後もまとまった降雨に備えて排水溝の手直しを徹底し、排水対策に努める。特に、乗用管理機による赤かび病防除後は、車輪で崩れた排水溝の手直しをしっかりと行う。</p> <p>成熟期が早まると予想されるので、子実水分20%以下を目標に、適期収穫に努める。</p> <p style="text-align: center;">農業技術センター（加西市）における生育状況</p> <table border="1" data-bbox="525 1115 1279 1267"> <thead> <tr> <th data-bbox="525 1115 794 1171"></th> <th data-bbox="794 1115 959 1171">本年※1</th> <th colspan="2" data-bbox="959 1115 1279 1171">平年※2</th> </tr> <tr> <th data-bbox="525 1171 794 1218"></th> <th data-bbox="794 1171 959 1218">出穂期</th> <th data-bbox="959 1171 1123 1218">出穂期</th> <th data-bbox="1123 1171 1279 1218">成熟期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="525 1218 794 1267">シロガネコムギ</td> <td data-bbox="794 1218 959 1267">4月5日</td> <td data-bbox="959 1218 1123 1267">4月10日</td> <td data-bbox="1123 1218 1279 1267">6月2日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 播種は11月11日（平年比+2日）</p> <p>※2 平年は直近7ヶ年から最高・最低を除いた平均値</p>		本年※1	平年※2			出穂期	出穂期	成熟期	シロガネコムギ	4月5日	4月10日	6月2日	<p>2 病害虫</p> <p>赤かび病の発病を未然に防ぐために、小麦、大麦ともに1回目の薬剤散布から10日後に2回目の薬剤散布を行う。令和8年4月6日発表の「令和8年度病害虫発生予察防除情報第1号」(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1583)を参考にする。</p> <p>イネ縞葉枯病の媒介虫であるヒメトビウンカは麦で増殖するので、昨年、発病が多くみられた地域は薬剤散布等で麦におけるヒメトビウンカの増殖を防ぐことが望ましい。</p>
	本年※1	平年※2												
	出穂期	出穂期	成熟期											
シロガネコムギ	4月5日	4月10日	6月2日											

作物地域	栽培上の留意点	対応策								
キャベツ 全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 初夏どりでは、肥料切れを起こさないようにする。</p> <p>(2) 降雨による滞水を避ける。</p> <p>(3) 降雨がなく乾燥が続く場合、球内のチップバーンの発生に注意する。</p> <p>(4) 生育適温下での降雨等により、急激に結球肥大が進むと裂球の発生が懸念される。</p> <p>2 病害虫</p> <p>菌核病、アブラムシ類の発生はいずれも平年並の予想である。コナガはフェロモントラップで4月当初から誘殺がみられてやや多い発生が予想され、結球部への食害が懸念される。</p> <p>ネギアザミウマは、たまねぎで多発生が確認されている。キャベツほ場が隣接する場合にはキャベツ結球部の食害がみられることがあるので注意する。</p>	<p>1 生育</p> <p>(1) タイミングを逃さないよう適期に追肥を行う。</p> <p>(2) 落水口への確実な連結により排水性を高める。</p> <p>(3) 10日以上降雨がない場合、畝間灌水等を行う。作土が浅いほ場では特に土壌の乾燥に注意する。</p> <p>(4) 春キャベツでは8分結球程度で、初夏どりでは締まり具合を確認し、球のしまったものから順次収穫する。</p> <p>2 病害虫</p> <p>令和8年4月20日発表の「令和8年度病害虫発生予報第1号」(https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/archives/1593)及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。</p>								
果樹 全県共通	<p>1 生育</p> <p>(1) 生育は県全体で昨年比・平年比とも早い。(樹種の差有)</p> <p>農業技術センターにおける樹種別の生育状況</p> <table border="1" data-bbox="311 1832 1345 2027"> <tbody> <tr> <td>クリ※1</td> <td>展葉は昨年比3日早い(平年比3日程度早い)</td> </tr> <tr> <td>ブドウ※1</td> <td>発芽、展葉ともに昨年比約7日早い(平年比4日程度早い)</td> </tr> <tr> <td>ナシ※2</td> <td>満開期は昨年比6日早い(平年比4日早い)</td> </tr> <tr> <td>温州ミカン※3</td> <td>早生温州の発芽は昨年比5日早い(平年比4日早い)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 加西市 ※2 朝来市 ※3 南あわじ市</p>	クリ※1	展葉は昨年比3日早い(平年比3日程度早い)	ブドウ※1	発芽、展葉ともに昨年比約7日早い(平年比4日程度早い)	ナシ※2	満開期は昨年比6日早い(平年比4日早い)	温州ミカン※3	早生温州の発芽は昨年比5日早い(平年比4日早い)	<p>1 生育</p> <p>(1) 生育進度に合わせて着果管理や防除の時期を見極め、適期管理に努める。</p>
クリ※1	展葉は昨年比3日早い(平年比3日程度早い)									
ブドウ※1	発芽、展葉ともに昨年比約7日早い(平年比4日程度早い)									
ナシ※2	満開期は昨年比6日早い(平年比4日早い)									
温州ミカン※3	早生温州の発芽は昨年比5日早い(平年比4日早い)									

作物	地域	栽培上の留意点	対応策
		<p>(2) ナシ（北但地区）では開花期の天候の影響を見極めた結実管理に努める。</p> <p>(3) 幼木は乾燥による生育不良にならないよう留意する。</p> <p>(4) 晩霜害を受けた園では適切な対応を行う。</p>	<p>(2) 摘果時に障害果等の判別を慎重に行う。</p> <p>(3) 土壌が乾燥する場合は、灌水を行う。</p> <p>(4) 晩霜害等による被害果がある場合は、果実を見極めるため摘果を遅らせる。 凍害を受けたクリ、サンショウ、イチジク樹では、発芽、展葉が健全な部分まで早めに切り戻し、新梢伸長を促す。</p>
		<p>2 病害虫</p> <p>果樹カメムシ類の発生量は隔年性があり、本年は発生が多い年に該当する。チャバネアオカメムシのフェロモントラップにおいて、気温の上昇した4月中旬に誘殺を認めている。今後、気温の上昇に伴い、園地への飛来が助長されるので留意する。</p>	<p>2 病害虫</p> <p>果樹園への飛来量や飛来時期は、周辺環境の影響を大きく受けるため、地域や園地によって異なるが、山林に近い園地では飛来量が多い傾向にあるため、特に注意する。発生や被害を認めたら、速やかに薬剤による防除を行う。「病害虫・雑草防除指導指針」を参考に適正に防除する。</p>

◎水稲・麦の栽培については、「稲・麦・大豆作等指導指針」を、防除については「病害虫発生予察情報」及び「病害虫・雑草防除指導指針」を参考にすること。

※本情報は、5月2日時点のデータを元に作成しています。

2 気象予報

(1) 近畿地方の向こう1か月予報

近畿地方 1か月予報 (05/09~06/08)		
2026年05月07日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	2週目は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 05/09~06/08	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わって来よう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率50%です。
1週目 05/09~05/15	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 05/16~05/22	気温	2週目は、高い確率80%です。
3~4週目 05/23~06/05	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 05/09~06/08	10 40 50
		1週目 05/09~05/15	30 50 20
		2週目 05/16~05/22	10 10 80
		3~4週目 05/23~06/05	10 30 60
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 05/09~06/08	30 40 30
	近畿日本海側	向こう1か月 05/09~06/08	40 30 30
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 05/09~06/08	30 40 30
	近畿日本海側	向こう1か月 05/09~06/08	30 30 40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

(2) 近畿地方の向こう3か月予報

近畿地方 3か月予報 (05月~07月)		
2026年04月21日14時00分 大阪管区気象台 発表		
05月~07月	気温	平均気温は、高い確率70%です。
05月	天候	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
06月	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。
07月	天候	期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	気温は、高い確率60%です。

気温、降水量の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	05月~07月	10 20 70
		05月	10 30 60
		06月	10 30 60
		07月	10 30 60
降水量	近畿地方	05月~07月	30 30 40
		05月	30 30 40
		06月	30 30 40
		07月	30 40 30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※ 気温・降水量・日照時間は低い・平年並・高い(少ない・平年並・多い)の3階級で予報されます。階級の幅は、平年値の作成期間(1991~2020年)における各階級の出現率が33%となるように決めてあります。

ホームページアドレス

- ・「兵庫県病害虫防除所（病害虫発生予察情報）」
<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp>
- ・「病害虫・雑草防除指導指針」
<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>
- ・「兵庫県総合防除計画」
<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>
- ・「稲・麦・大豆作等指導指針」
https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk12/af11_000000107.html

問い合わせ先

本情報に関すること

- ・兵庫県農林水産部農産園芸課農産・野菜班（主作・機械担当） TEL 078-362-3494
農産・野菜班（野菜担当） TEL 078-362-4013
花き果樹班 TEL 078-362-9218

技術内容に関すること

- ・兵庫県立農林水産技術総合センター
 - 企画調整・経営支援部 TEL (0790)47-2435
 - 農業技術センター 農産園芸部 TEL (0790)47-2410
 - 農業技術センター 病害虫部 TEL (0790)47-1222
 - 北部農業技術センター 農業・加工流通部 TEL (079)674-1230
 - 淡路農業技術センター 農業部 TEL (0799)42-4880